

平成25年度実施施策に係る政策評価書

別紙2

(環境省YY-①)

施策名	目標9-3 環境問題に関する調査・研究・技術開発					
施策の概要	環境の状況の把握、問題の発見、環境負荷の把握・予測、環境変化の気候や環境影響の解明・予測、環境と経済の相互関係に関する分析、対策技術の開発など各種の調査研究・研究開発を実施するとともに、研究開発のための基盤の整備、成果の普及により環境分野の研究・技術開発を推進し、環境問題の解決や持続可能な社会の構築の基礎とする。					
達成すべき目標	環境技術の研究開発を進め、環境と経済の統合された社会の実現に寄与する。					
施策の予算額・執行額等	区分	23年度	24年度	25年度	26年度	
	予算の状況(百万円)	当初予算(a)	13,008	12,729	11,765	/
		補正予算(b)	308	1889	-	
		繰越し等(c)	△ 1,301	△ 885	(※記入は任意)	
		合計(a+b+c)	12,015	13,733	(※記入は任意)	
執行額(百万円)	11,966	13773	(※記入は任意)			
施策に関する内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの)	第4期科学技術基本計画(平成23年8月19日閣議決定)において、以下のことが述べられている。 ・科学技術は、我が国の豊かさや人々の安全な暮らしの実現、経済をはじめとする国力の基盤の構築に資するとともに、知のフロンティアを切り拓き、我々人類の直面する課題の克服に貢献するための手段である(第1章 4.(1)) ・新たな価値の創造に向けて、我が国や世界が直面する課題を特定した上で、課題達成のために科学技術を戦略的に活用し、その成果の社会への還元を一層促進するとともに、イノベーションの源泉となる科学技術を着実に振興していく必要がある。(第1章 4.(2)①)					

測定指標	環境研究総合推進費の事後評価(5段階)で上位2段階を獲得した課題数(上位2段階の課題数/全評価対象課題数)	基準値	実績値					目標値	達成
		年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	年度	△
		-	26/36 (72.2%)	20/38 (52.6%)	18/46 (39.1%)	29/58 (50.0%)	47/82 (57.3%)	60%以上	
		年度ごとの目標値	-	-	-	-	-	-	
		基準	施策の進捗状況(実績)					目標	
	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	年度	△	
	平成21年度	85	157	206	283	319	対象技術分野数×4		
	年度ごとの目標	70	140	220	300	390	-		
	-	-	施策の進捗状況(実績)					目標	達成
	-	-	-	-	-	-	年度	-	

評価結果	目標達成度合いの測定結果	(各行政機関共通区分) 相当程度進展あり (判断根拠) ・環境研究総合推進費は目標値60%に対して、57.3%の達成率であり、目標には僅かに及ばなかったものの、おおむね目標に近い実績となっている。 ・環境技術実証事業は、本事業が普及・推進したことを受け、単年度ごとの実証件数こそ減少したものの、通算では556技術を実証しており、アメリカに次ぐ世界トップレベルの実績を有している。
	施策の分析	・環境研究総合推進費はH22～H23年度に3つの旧制度を統合して創設された。制度統合途中のH22～H23年度には、目標達成度が低下したが、H24年度以降、目標値には達していないものの、研究管理強化等の運用改善に努め、実績値は改善傾向にある。 ・環境技術実証事業は本事業による環境技術及びその測定手法が広く普及したことを受け、対象技術の一部がJIS化した。その結果、対象技術の一部は、本事業の対象外となり、単年度ごとの実証数は減少した。また、「試験室等での実証」から「現場での実証」が主体となる等、先進的環境技術の性質が推移していることを受け、1技術あたりの実証に要する業務量、時間及び経費等が増加していることから、今年度目標から見直しを行っている。
	次期目標等への反映の方向性	【施策】 環境研究総合推進費 【測定指標】 推進費ではH26年度に5年に1度の制度評価を実施する予定であり、測定指標・目標値とその達成状況についても、推進費運用担当が自己評価を行うとともに、外部有識者からの評価・提言をいただき、その結果を踏まえた運用改善を図ってまいりたい。特に各研究課題に対する事後評価については、より環境政策への貢献の程度を適切に評価に組み入れられるようにする等、評価の手法について検討改善を進めてまいりたい。 【施策】 環境技術実証事業 【測定指標】 環境技術実証事業では最新の先進的環境技術の実証及び普及を目的としていることから、毎年対象技術分野の見直しを行っており、技術開発者やユーザーのニーズについて調査を行うとともに、検討会を設置し、外部有識者からの意見を参考に改善してまいりたい。

学識経験を有する者の知見の活用	研究・技術開発課題については、環境研究企画委員会の研究部会等により事前・中間・事後評価を実施し、その結果をもとに環境研究企画委員会が総合的な検討を行った上で、最終的な評価結果を取りまとめ、研究者に開示するとともに推進費Webサイトで公表している。
-----------------	---

政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報	・環境技術実証事業: 実証技術情報(実証結果一覧) <a href="http://www.env.go.jp/policy/etv/list_20.html">http://www.env.go.jp/policy/etv/list_20.html</a> ・環境研究総合推進費: 中間・事後評価の結果について <a href="http://www.env.go.jp/policy/kenkyu/suishin/kadai_hyouka/chukan_jigo.html">http://www.env.go.jp/policy/kenkyu/suishin/kadai_hyouka/chukan_jigo.html</a>
---------------------------	---

担当部局名	環境研究技術室	作成責任者名 (※記入は任意)	吉川 和身	政策評価実施時期	平成26年6月
-------	---------	--------------------	-------	----------	---------